

人類にとっての 感染症の意味を考える

愛場庸雅

日本ホリスティック医学協会関西支部長
大阪市立総合医療センター 耳鼻咽喉科部長

R2.3.1

人類にとっての感染症の意味を考える

近代医学の歴史の多くは、感染症との戦いでした。しかし、地球という大きな一つの生命体の中にあって「共存するいのち」という見方をすれば、動植物そして細菌、ウイルスにも、実はそれぞれの存在意義があるのではないのでしょうか？

ウイルスの命

ウイルスとは？

一人で生きてゆけない存在

善玉菌・悪玉菌？
微生物との共生
不要な命はない

生態系のバランス 腸内細菌のバランス

トンコレラ
鳥インフルエンザ

食料とエネルギーと環境問題

医療の歴史と感染症
公衆衛生・予防医学の普及
大量死の減少・寿命の延長

話題になった感染症

- ジカ熱
- デング熱
- エボラ出血熱
- MERS
- SARS
- AIDS
- 狂牛病
- クロイツフェルト・ヤコブ
- B型・C型肝炎
- O-157腸炎
- 耐性菌 (MRSA、緑膿菌、肺炎球菌、・・・)
- インフルエンザ
- ノロウイルス
- 麻疹
- 結核
- 天然痘
- ペスト
- チフス

感染症の消長
新興感染症はなくなるらない

感染症で絶滅するか？

ガイア仮説 地球規模の自然治癒力

地球温暖化
氷河期
地殻変動

ネズミの集団行動

感染症 あらゆる生物の共存

新陳代謝、バランス維持の ためのシステム

地球から見たヒトという生物種

適正な人口

いのちが脅かされる恐怖

何のためのいのちか？
死の覚悟

地球規模の視点で、私たちは
何ができるのか？